



鮮やかな色彩の家具が引き立てる ラグジュアリーな屋外リビング

〔ML257号 2021年7月 掲載〕

季節ごとにゲストを招いてガーデンパーティを楽しむ建て主のために、建築家の森山善之さんが提案したのはLDKの北側に続く広々としたテラス。ガラスの屋根がかけられ、植栽がプライバシーを守る気持ちのよい半屋外空間です。リッチなブルーの家具は屋外家具の代表的ブランド、パオラレンティのもの。ラグを敷き、エタノール暖炉も中央に配置。ポータブルスピーカーから音楽を流せば、そこは室内以上に贅沢な場所となり、豊かな時間が生まれます。

物件名：UTR house 設計：森山善之+梅本寿人
建築設計事務所パケラッタ
撮影：下村康典



11

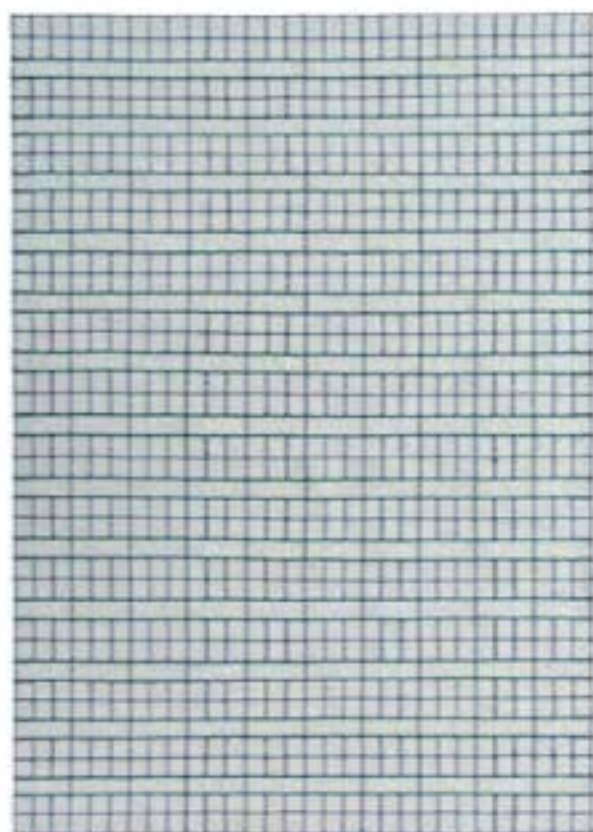
触覚 Touch

プールサイドを裸足で歩いたり、
心地よい風を感じたり、
屋外で過ごす時間はいつもより
肌も繊細な変化を感じ取れるように。
四季折々の美しい変化を
全身で味わうことができる
家具から小物、家電まで紹介します。



13

12



14

11 柔らかなクッションに包まれる心地よさ

スタイリッシュなステンレススチール製のフレームに、生分解性の再生ポリエステル繊維を素材にした、パオラ・レンティ特有の鮮やかな色彩のキルティングパッドやクッションを組み合わせ。2シーター、3シーターのソファの他、アームチェアもそろえる。ソファ「アルマ」
W1840×D1000×H850×SH380mm
¥1,611,500〜
(Paola Lenti Tokyo)

12 素足で楽しみたい手織りの感触

ドイツ、ベルリンを拠点とするスタジオ・テルヘーデブリュッゲがデザインした、再生PETを素材とするガンのアウトドア用ラグ。グリッド部分が立体的に盛り上がり、モダンなデザインながら職人の手仕事を感じさせる。ブルー×グリーンなど、3色展開。ラグ「レティ」W1800×D2460mm
¥352,000
(リアルスタイル)

13 ミストを溶びて、涼しく快適に

室内はもちろん、コードを外して屋外でも使えるシャークのコードレスサーキュレーター。ミスト機能付きなので暑い日でも快適な涼しさに。コードレスで最大24時間駆動。ブーストモードを使えば最大20m先にも風が届くというパワフルさにも注目。サーキュレーター「シャークフレックスブリーズコードレスサーキュレーターファン」
W350×D350×H940mm ¥29,700
(シャークニンジャ)

14 暖かな炎がゆらめくコーヒーテーブル

煙やすさを排出しないバイオエタノールを燃料とするエコスマートファイヤーの暖炉。工事を必要とせず、置くだけで設置が完了。室内外両用で、コーヒーテーブルとしても使用可能。特徴的なオレンジ色の炎がアウトドアリビングに暖かな彩りをプラス。バイオエタノール暖炉「チェイサー 38」
W950×D950×H510mm ¥539,000
(EcoSmart Fire六本木ショールーム)



7 他のイタリアのラグジュアリーブランドが展開するアウトドア家具とは一線を画す、アーティスティックなデザインが特徴の「アルマ」。トラス構造のような軽やかなスチール製のフレームに、メッシュのシートを配している。1・2・3人掛けを展開。シートと背もたれのパッドは取り外しが可能で、サイズだけでなく、多様なカラーやファブリックからカスタマイズを楽しめる。フレームのカラーはマットのグラファイト仕上げが白と黒、マット仕上げで11色、クロス仕上げで64色という驚異的なバリエーション。

Paola Lenti

「パオラレンティ」の世界観で室内外を統一 工芸・アートにまで昇華した家具

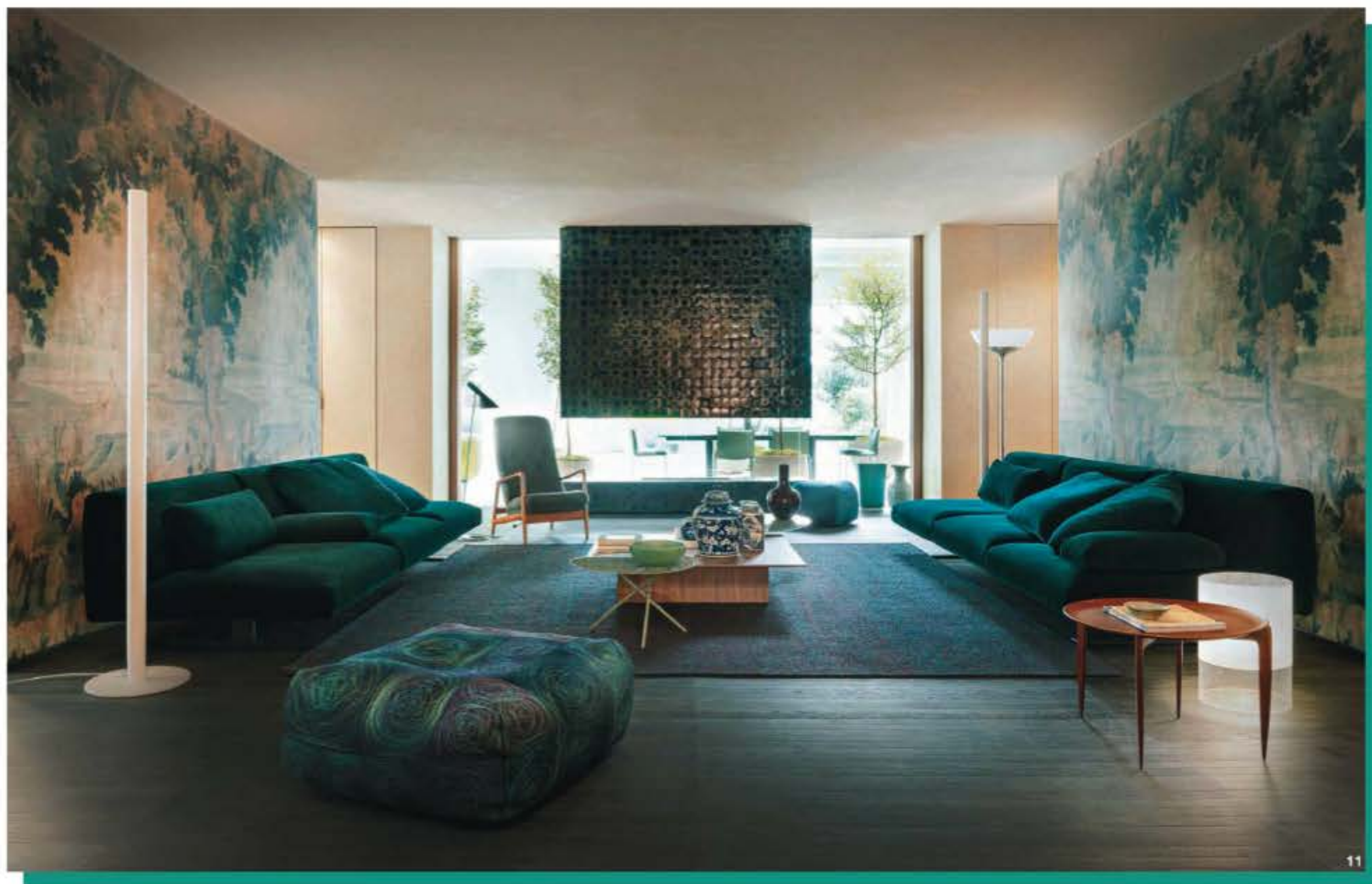
自然の元素から着想を得たデザインと、職人の手仕事による偶然性が融合する

パオラレンティの家具。年を追うごとに独自性を増していますが、そのクリエイティビティは工芸やアートの領域にまで及ぼうとしています。

撮影: Michele Silvestro (p.168 2の上・5, p.170 9・12) 取材・文: 小柳亜加莉



1 1950年代に活躍したブラジルの建築家、リナ・ボ・バルディが手掛けたラウンジチェア「アズール」。2025年、パオラレンティのファブリックをまとい復刻された。後ろ姿も美しい。
2 滑らかな石の上にガラスで装飾したサイドテーブル「シアラ」。美しい模様は一点一点表情が異なる。写真右はサイドテーブル。写真上は昇降式のコンパクトなテーブルでバリエーションがある。
3 ヴィクター・カラスコがデザインしたラウンジチェア「アマブル」。ゆったりとした掛け心地のシートは回転式。
4 2025年の新作「アルマ」を使ったソファコーナーは、ミラノサローネ期間中のショールームでの展示。
5 「アルマ」はエッジの利いたデザインだが、木陰が落ちるとナチュラルな雰囲気に転じる。
6 「シアラ」のダイニングテーブル。天板はタイル仕上げで、多様なバリエーションから選択できる。タイルは職人によって手作業でつくられ、庭で工芸を味わえる。ざっくりとした織り目のチェアは「アミ」。



11 リビングシーン。パオラレンティのアイテムだけではなく、北欧ブランドの照明、ヴィンテージのチェアやテーブルを組み合わせたミックススタイルのコーディネート。「室内をワンブランドでコーディネートするのは現実的ではない」というパオラ・レンティの考えを体現している。向かい合わせに配したソファは「ムーヴ」。脚部がシートや内側に配されているため浮遊感がある。手前のオットマン「ギリゴロ」は立体アートのような趣。窓際に配置した暖炉の上部には、アーティスティックなタイルが使われている。

SHOWROOM DATA



Paola Lenti Tokyo
東京都港区麻布台3-5-5
営業時間: 11:00-18:00
※日曜、祝日
☎03-6712-5354
<https://www.paolalenti.jp/>



13

8 繊細なアッシュ材とロープで構成される「ヌヴェラ」は、ミケーレ・デル・ルッキが主宰するAMD L CIRCLEがデザイン。
9・10 建築家のアンジェロ・マンジャロが1970年代に発表したソファ「レジェール」が復刻。カーブを描くポリウムのあるオーク材のフレームが後ろ姿をスタイリッシュに演出し、大ぶりのシートが居心地のよさを生む。1人掛けと2人掛けを展開している。
12 2025年のミラノサローネの開催期間にモダンリビングのインタビューを受けるパオラ・レンティ。ブランドのフィロソフィーやプロダクトデザイン、コーディネートについてなど多岐にわたって語ってくれた。2026年のコレクションについてはまだ白紙なのだそう。
13 ブラジルのデザインスタジオ、スタジオ・カンバーナによるファブリックの端材でつくられたラウンジチェア「ミリエダ」。石のようなニットパットを複数ランダムに組み合わせることで、ボタニカルアートのようなイメージを与える。



8



10

屋内外で展開される パオラレンティの世界観

パオラレンティは、1994年にミラノで誕生した、ラグジュアリーなインテリアブランド。設立者のパオラ・レンティはグラフィックデザイナー出身で、独自のカラーシステムを築いているのが特徴です。海や空、植物、動物など自然界から着想を得た色彩は、圧倒的なパリエーションを誇っています。

2024年に室内の建材やキッチンを発表し、室内外トータルでブランドの世界観を感じられる提案が際立ちました。2025年はその世界観をさらに広げるコレクションを展開しています。p168・169で紹介した「アルマ」は、近年、ラウンジドしたポリウム感のある家具が主流になっているなかで、スクエアで軽やかなデザインが新鮮。今後のインテリヲトレンドをいち早く示唆しているのかもしれない。



12

加えて注目を集めたのが、過去の作品を現代の視点で再構築する「再編集 (Re-editions)」という取り組み。ブラジルの建築家リナ・ボ・バルディがサンパウロの自邸「Casa de Vidro」(ガラスの家)のためにデザインしたラウンジチェア「アズール」と、イタリアの建築家アンジェロ・マンジャロが1970年代に手掛けたソファ「レジェール」の復刻です。